



2022年3月期 第2四半期 決算補足説明資料

2021年11月



株式会社カクヤスグループ
証券コード：7686

お客様のご要望に「なんでも」応えたい



カクヤスグループは創業100周年を迎えました

～これからも、よい、ひとときをお届けします～

100年もの永きにわたり事業を続けることができましたのは、お客様をはじめとするすべてのお取引先様、株主様、関係者様の皆様のご支援の賜物と考えております。
今後とも、変わらぬ御支援と御愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

「カクヤスグループ創業100周年記念ウェブサイト」
(2021年11月1日オープン)

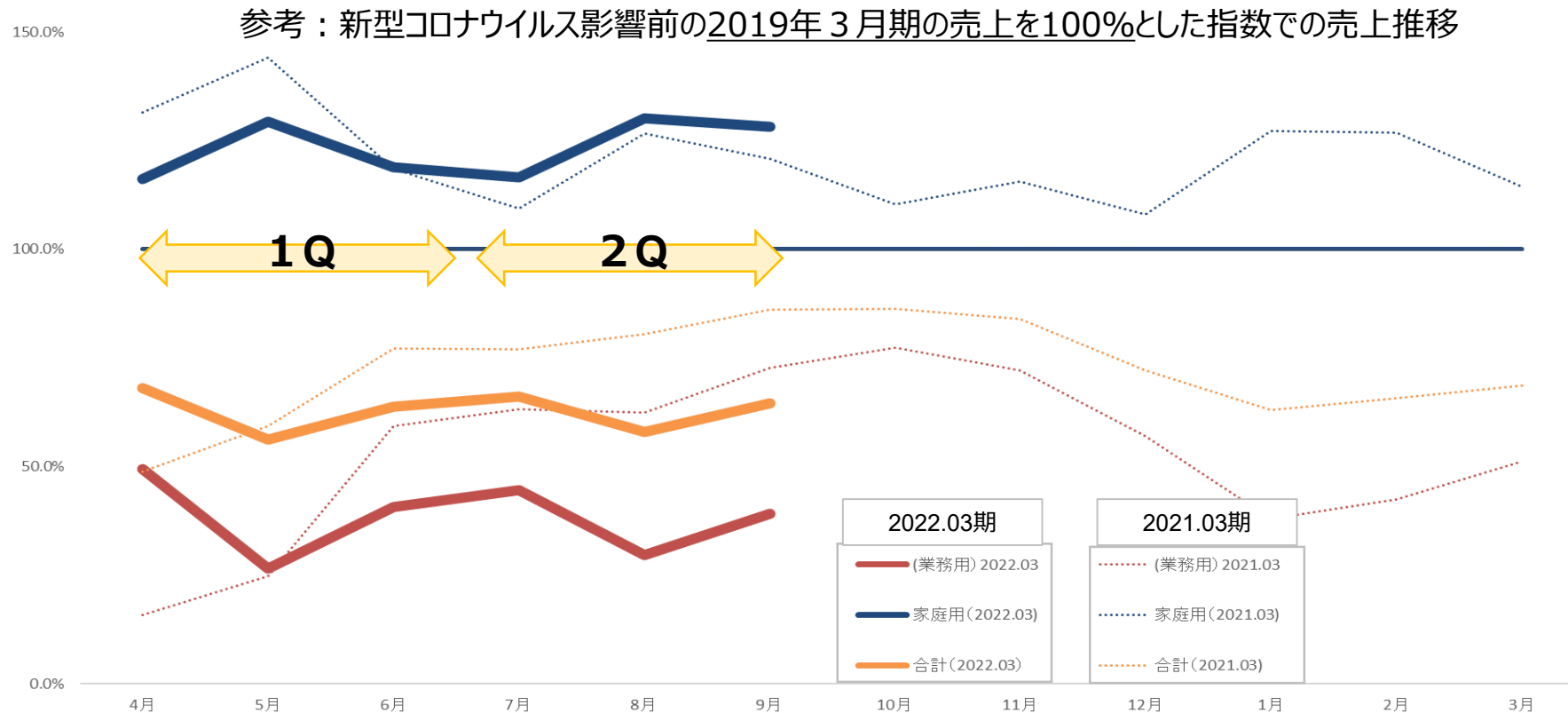
<https://www.kakuyasu-group.co.jp/100th/>



1. はじめに

(新型コロナウイルスの影響①)

- 3回目の緊急事態宣言（4月25日～）において、飲食店での酒類の提供が終日禁止。
- 第2四半期（2021年7月～9月）に至っては、期間中約8割の日数が緊急事態宣言下であり、業務用への影響は深甚。



第1回：20.4/7 - 20.5/25

第3回：21.4/25 - 21.6/20

第4回：21.7/12 - 21.9/30

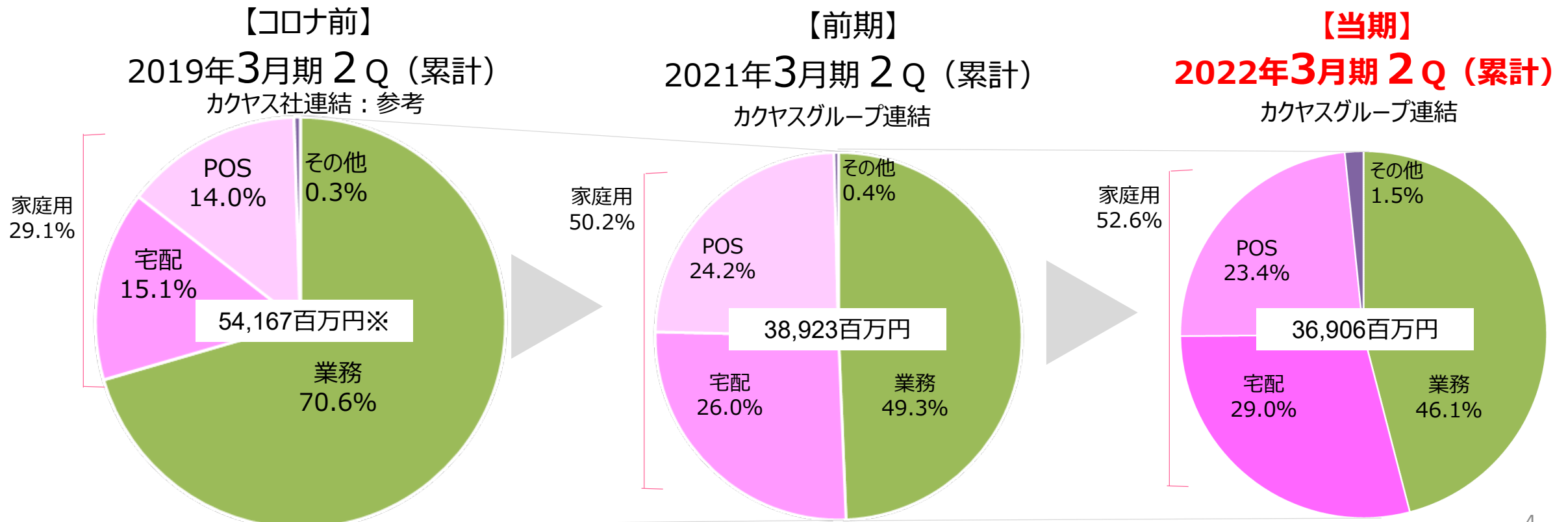
第2回：21.1/8 - 21.3/21

【緊急事態宣言の時期】

1. はじめに

(新型コロナウイルスの影響ー②)

- コロナ前に7割あった業務用の売上構成は、依然としてコロナの影響を受けており、5割を更に割り込み推移。
- 一方家庭用の売上構成は、戦略の軸をビジネスモデルとして強みがある家庭用に振り切ったことで大幅な伸長を維持。



※2019年3月期第2四半期は金融商品取引法に基づく連結財務諸表は作成していません。

1. 第2四半期 決算概要

2. 第2四半期 事業報告

3. 今後について 2022年3月期連結予想について

4. 配当方針について

2. 第2四半期 決算概要

連結 損益計算書

(単位：百万円)

科目名	2021年3月期 2Q	2022年3月期 2Q	増減額	増減率
売上高	38,923	36,906	△2,017	△5.2%
売上総利益	8,013	7,906	△107	△1.3%
	20.6%	21.4%		0.8pt
販売費および 一般管理費	9,528	10,675	1,147	12.0%
	24.5%	28.9%		4.4pt
営業利益（損失）	△1,514	△2,768	△1,254	-
	-	-		
経常利益（損失）	△1,064	△2,357	△1,293	-
	-	-		
親会社株主に帰属する 当期純利益（損失）	△843	△1,898	△1,055	-
	-	-		

2. 第2四半期 決算概要

売上区分別の連結売上高 前期比較

区分	2021年3月期 2Q	2022年3月期 2Q	増減額	増減率 (前年比)
業務	19,205	16,998	△2,207	△11.5% (88.5%)
宅配	10,135	10,686	551	5.4% (105.4%)
POS (POSレジでの取引売上)	9,427	8,647	△780	△8.3% (91.7%)
卸等	156	572	416	267.6% (367.6%)
計	38,923	36,906	△2,017	△5.2% (94.8%)

<前年比>

■業務

客数 : 96.9%

客単価 : 91.4%

長引く緊急事態宣言の影響で注文量が大幅に減少しており、客数・単価ともに前年より減。

[参考：2社売上（4月～9月）]

（サンノー社：約680百万、ダンガミ社：約1,800百万）

■宅配

客数 : 108.5%

客単価 : 97.2%

オリンピックでの家飲みやテレビCMでの新規会員数の増加等の影響で客数は増加。
1顧客あたりの買い上げ点数が減少し単価減。

■POS

客数 : 91.9% (参考) 1Q : 86% / 2Q : 99%

客単価 : 99.9%

第1回目の緊急事態宣言下、食材・備蓄品を目的とした来客が増加していた影響もあり、前年より顧客数減。

■卸等

前年に完全子会社化した明和物産社の実績を取り込んだことで、大きく伸長。

2. 第2四半期 決算概要

販売管理費 前期比較（主要な増減項目）

	2021年3月期 2Q	2022年3月期 2Q	増減額	増減率
人的コスト	5,960	6,570	610	10.2%
給与及び手当	4,540	5,004	463	10.2%
法定福利費	699	773	73	10.5%
採用費	27	71	44	163.0%
配送費	214	196	△17	△8.3%
マーケティングコスト	477	666	188	39.5%
広告宣伝費	34	336	302	881.9%
販売促進費	243	114	△128	△52.7%
その他コスト	3,090	3,438	348	11.3%
支払い手数料	720	779	59	8.2%
のれん償却費	12	79	67	555.0%
保守修繕費	128	175	46	36.2%
租税公課	135	72	△62	△46.3%
販売費及び一般管理費	9,528	10,675	1,147	12.0%

全体で1,147百万円の増加

（主要な項目 単位：百万円）

<増加した主なコスト>

- 給与及び手当
 - └ 子会社買収による給与の増加 398
- 広告宣伝費
 - └ テレビCMに係る広告宣伝費 280
- 「子会社3社の買収による増加」
 - 支払手数料 41
 - のれん償却 68

<減少した主なコスト>

- 販売促進費
 - └ 収益認識基準の対応(売上高控除) △157
- 租税公課
 - └ 減資による外形標準課税の減少 △59

2. 第2四半期 決算概要

営業利益以下 前期比較

	2021年3月期 2Q	2022年3月期 2Q	増減額	増減率
営業利益（損益）	△1,514	△ 2,768	△1,254	—
営業外収益	474	460	△14	△3.0%
営業外費用	24	49	25	101.4%
経常利益（損益）	△1,064	△ 2,357	△1,293	—
特別利益	—	29	29	—
特別損失	61	91	30	50.5%
税引前利益（損益）	△1,125	△ 2,420	△1,295	—
法人税等合計	△282	△ 521	△ 239	—
当期純利益	△843	△ 1,898	△1,055	—

■ 主な増減の内訳

（単位：百万円）

【営業外収益】

- コロナによる雇用調整助成金 32
（参考：前期366-当期398）

※前期、店舗の立ち退きによる収益があったことでの差異△90

【営業外費用】

- 支払利息の増加 9
- 第三者割当増資による新株発行費 9

【特別利益】

- 投資有価証券売却益 29

【特別損失】

- 減損損失（カクヤス店舗） 90

【法人税等合計】

- 法人税等調整額 △233
 - ・税効果（繰越欠損金の回収可能分の計上）
 - ・評価性引当金（繰越欠損金、減損）

2. 第2四半期 決算概要

連結 貸借対照表 (主要な増減項目)

(単位：百万円)

(主要な項目 単位：百万円)

資産の部	2021年 3月期 期末	2022年 3月期 2Q	増減額
流動資産	13,785	12,658	△1,126
現金及び預金	2,525	2,034	△490
受取手形及び売掛金	4,745	3,468	<u>△1,277</u>
商品	3,610	4,028	<u>417</u>
未収還付消費税等	623	236	<u>△387</u>
固定資産	13,208	13,308	100
有形固定資産	6,732	6,938	205
建物及び構築物	3,516	3,679	163
無形固定資産	2,357	2,168	△189
のれん	1,485	1,405	△79
リース資産	203	115	△87
投資その他の資産	4,119	4,202	83
資産合計	26,994	25,967	<u>△1,026</u>

負債の部	2021年 3月期 期末	2022年 3月期 2Q	増減額
流動負債	18,535	16,924	△1,611
買掛金	10,079	9,561	<u>△518</u>
短期借入金	5,614	5,361	△252
リース債務	164	87	△77
その他 (未払消費税)	2,278 (630)	1,529 (10)	<u>△748 (△620)</u>
固定負債	5,246	5,664	418
長期借入金	4,166	4,598	432
負債合計	23,781	22,588	△1,192
資本金	379	35	<u>△343</u>
資本準備金	638	3,214	<u>2,576</u>
利益剰余金	2,070	△22	<u>△2,092</u>
純資産合計	3,212	3,379	166
負債・純資産合計	26,994	25,967	△1,026

資産 前連結会計年度末比：1,026百万円減少

■受取手形及び売掛金	△1,277
・業務用売上の減少による売掛残高の減少	
■商品	417
・緊急事態宣言解除に向けた在庫準備	
■未収還付消費税等	△387
・前期末計上の未収消費税の還付受	

負債 前連結会計年度末比：1,192百万円減少

■買掛金	△518
業務用仕入れの減少に伴う買掛金の減少	
■その他	△748
・前期末計上の未払消費税の支払い (△620)	

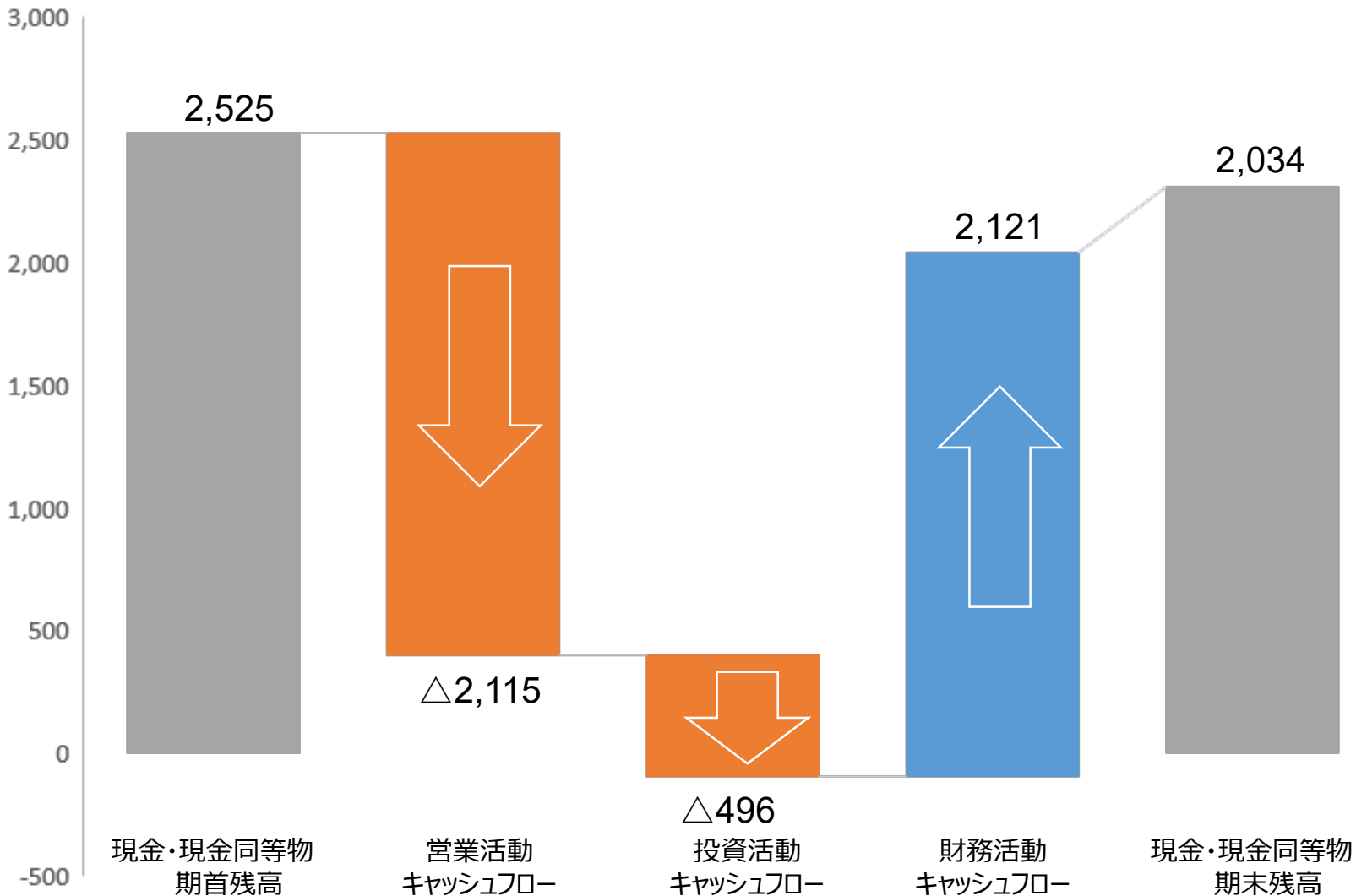
純資産 前連結会計年度末比：166百万円増加
自己資本比率13.0% (前期末11.9%)

・資本金の額の減少	△343
└ 第三者割当による増資(1/2)	1,109
└ 資本金の額の減資	△1,459
・資本準備金の増加	2,576
└ 第三者割当による増資(1/2)	1,109
└ 資本金の額の減少による振替	1,459
・利益剰余金	△2,092
└ 当期純損失	△1,898

※主要項目のみを抜粋記載しているので、縦計は合いません。

2. 第2四半期 決算概要

連結 キャッシュフロー計算書



(主要な項目 単位：百万円)

営業活動によるCF △2,115

[増加要因]

売上債権の減少額 1,238

[減少要因]

四半期純損失 △2,420

仕入債務の減少額 △516

棚卸資産の増加額 △417

投資活動によるCF △496

[減少要因]

固定資産の取得による支出 (新規出店・改装等) △487

財務活動によるCF 2,121

[増加要因]

株式の発行による収入 2,209

長期借入金による収入 960

[減少要因]

長期借入金の返済 △499

短期借入金の純減少額 △280

1. 第2四半期 決算概要

2. 第2四半期 事業報告

3. 今後について
2022年3月期連結予想について

4. 配当方針について

2. 第2四半期 事業報告

業務用

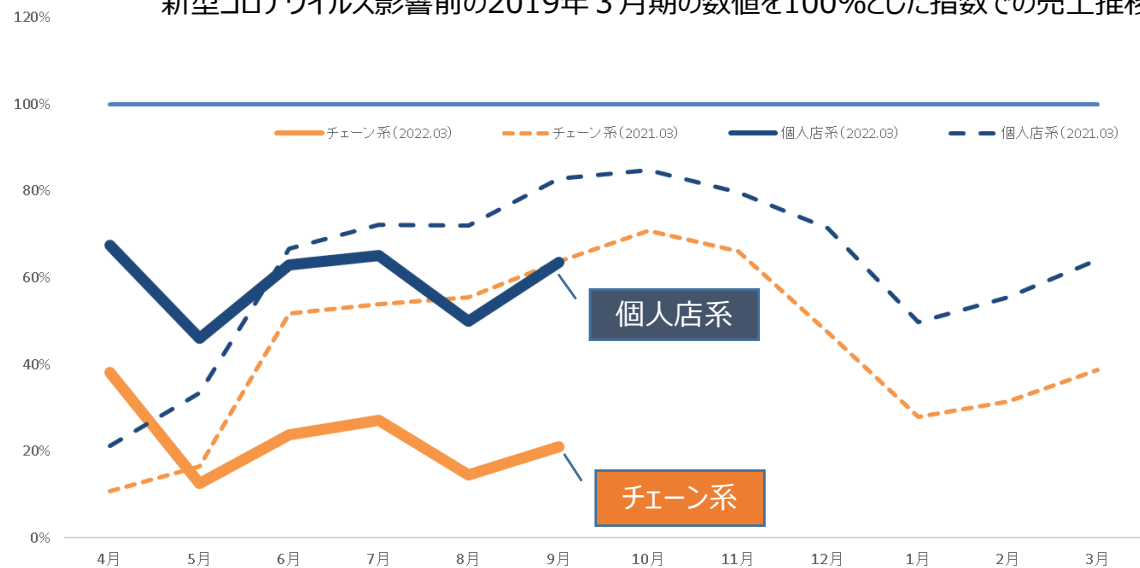
業態別での変化

- 業態別では、緊急事態宣言の無かった前年に対し、特にチェーン系を中心とした得意先の売上が大きく下回る。
- 業態別では、コロナ前と比較し、特に居酒屋系でご注文を頂けなかったお客様が多く、約4割減となりました。

「個人飲食店系」と「チェーン店系」でのコロナ前との比較

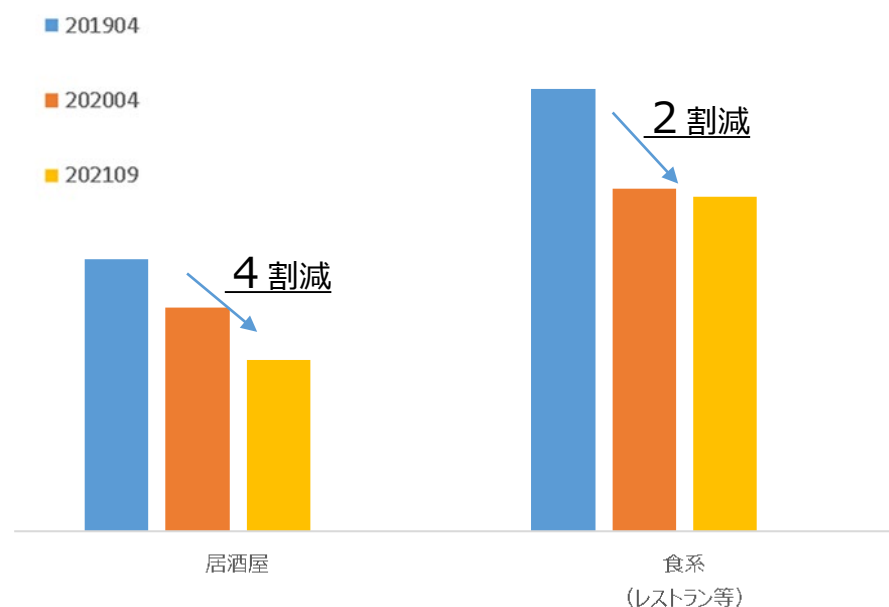
(カクヤス社単体)

新型コロナウイルス影響前の2019年3月期の数値を100%とした指数での売上推移



業態別での「指定月に売上実績のあった得意先数」推移

(カクヤス社単体)



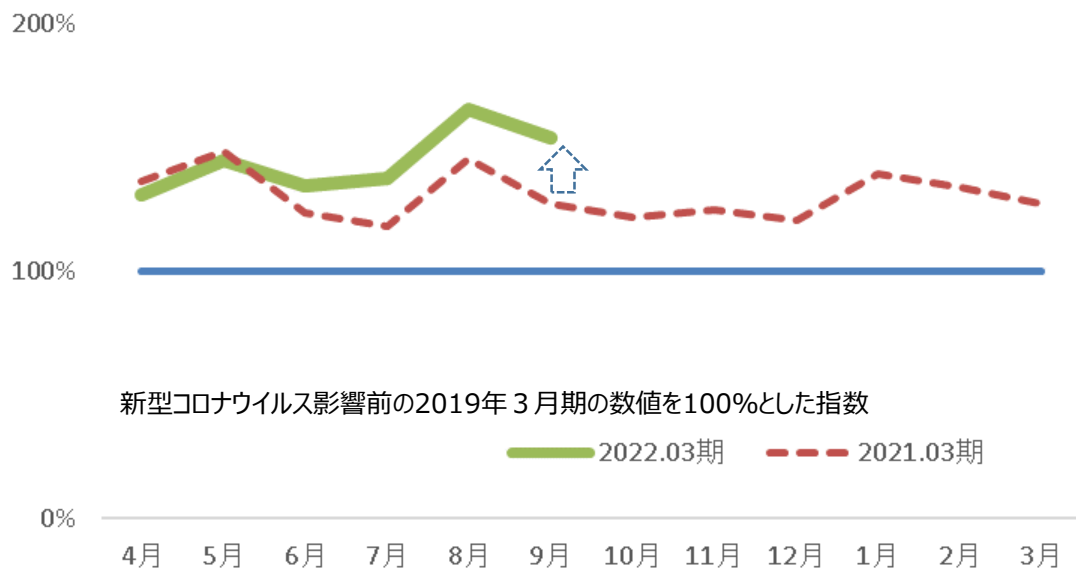
2. 第2四半期 事業報告

家庭用

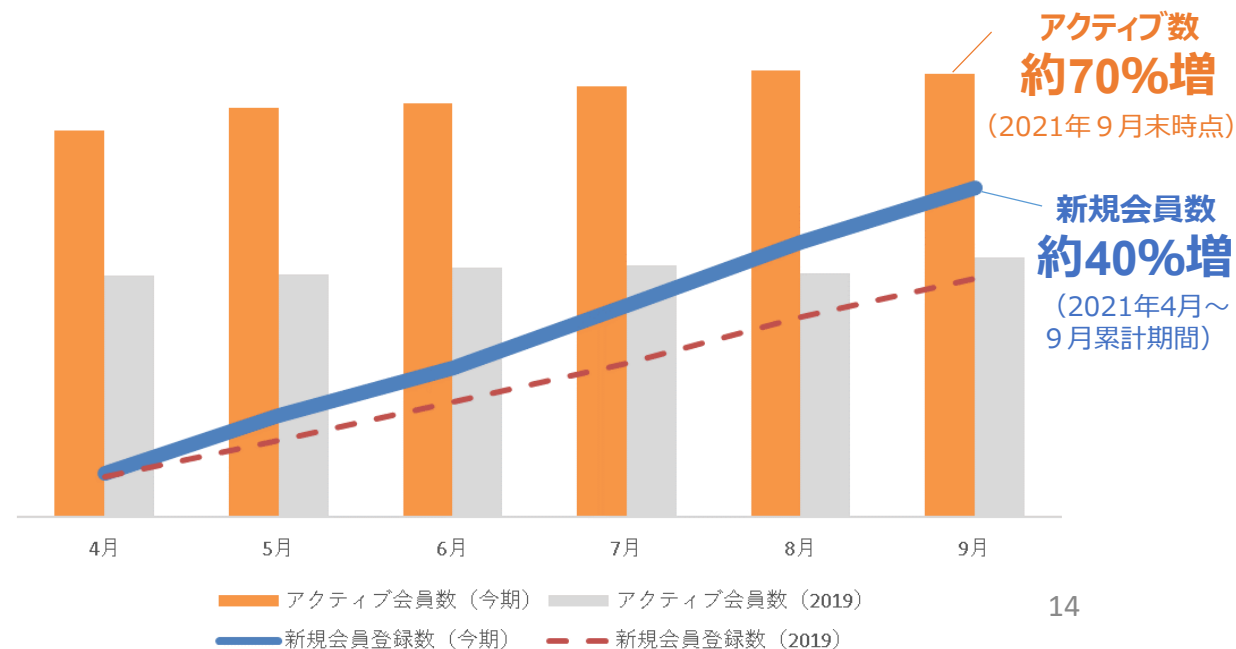
新規会員数（注文数）の増加

- 家庭向け宅配は、コロナ禍での家庭内需要を取り込み大きく伸長した前年を、さらに超えて推移。
- カクヤネットショッピングの新規会員数の増加は、コロナ前と比較し上期は全体で約40%増と伸長。自社ECサイトは、6月のテレビCM第一弾以降、オリンピックや猛暑の効果もあり好調に推移。9月時点でのアクティブ会員数は、コロナ前の約70%増に至る。

家庭向け宅配の客数推移



ネットショッピングの新規会員数とアクティブ会員数推移



2. 第2四半期 事業報告

家庭用

家庭用商品ラインナップの強化

- お客様の声にお応えして即日配送サービスの商品ラインナップをさらに拡充。「サプリメント」「栄養ドリンク」「生活用品」「介護用品」の取扱い、及び即日配送サービスを開始。
- 今後も、お客様のさらなるニーズにお応えすべく酒類に限らない新たな商品の取り扱いをプラスしてまいります。

約300SKUの新規カテゴリー商品をラインナップ！

▶ 6月より開始

・ペット用品 約150SKU



▶ 7月より開始

・炭酸メーカー



▶ 9月より開始

・栄養ドリンク 約30SKU



・サプリメント 約60SKU



・冷凍食品 約30SKU

※一部店舗



2. 第2四半期 事業報告

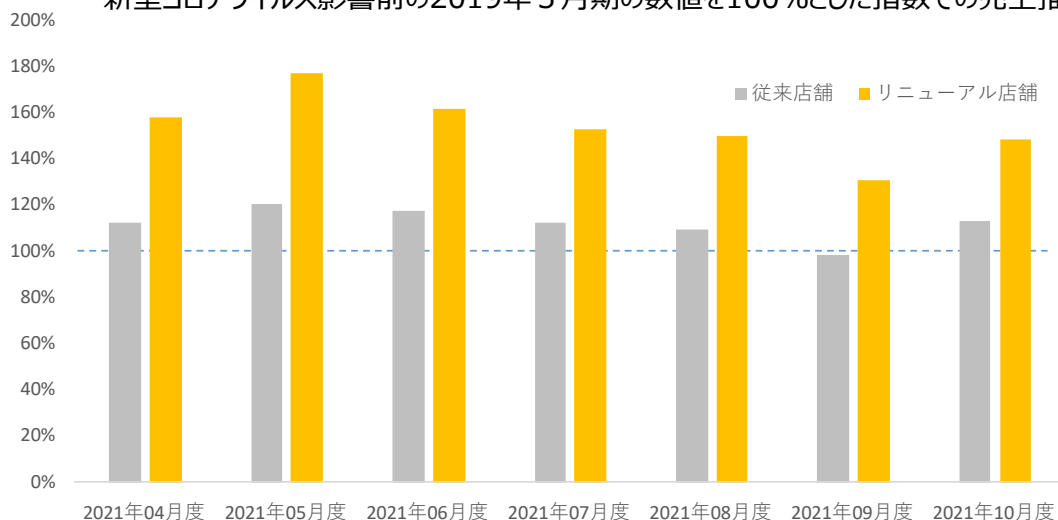
家庭用

店舗改装による効果

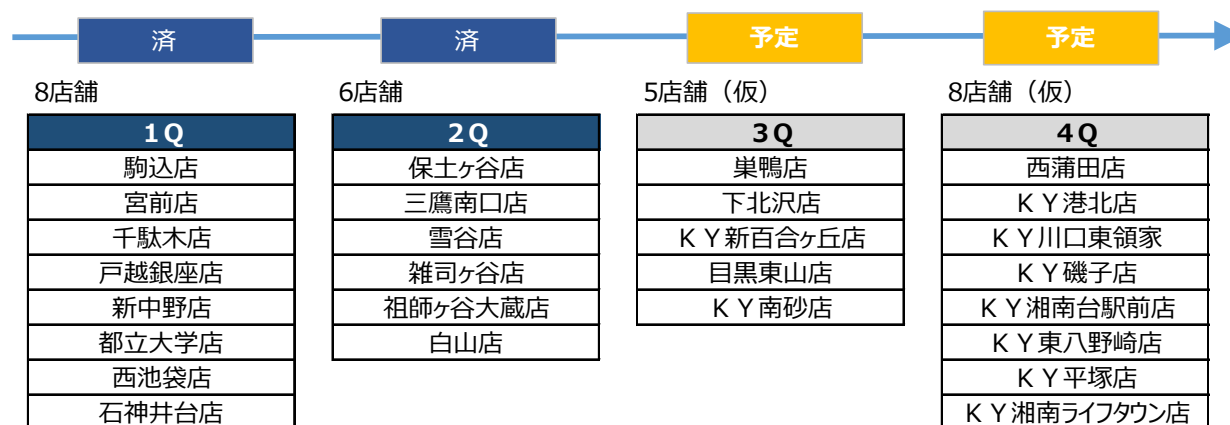
- コロナ禍での家庭内需要の増加を背景に、さらなる店頭での販売増加を見込んで店舗改装を実施。
- **改装をした店舗は、コロナ前（2019年3月期比）と比較し、上期で約150%増で推移。**（従来店舗は約110%増）
上期にて14店舗を実施し、今期中に更に13店舗の改装を予定。

リニューアル店舗と従来店舗との比較

新型コロナウイルス影響前の2019年3月期の数値を100%とした指数での売上推移



店舗改装の実績と今後の予定



1. 第2四半期 決算概要

2. 第2四半期 事業報告

3. 今後について

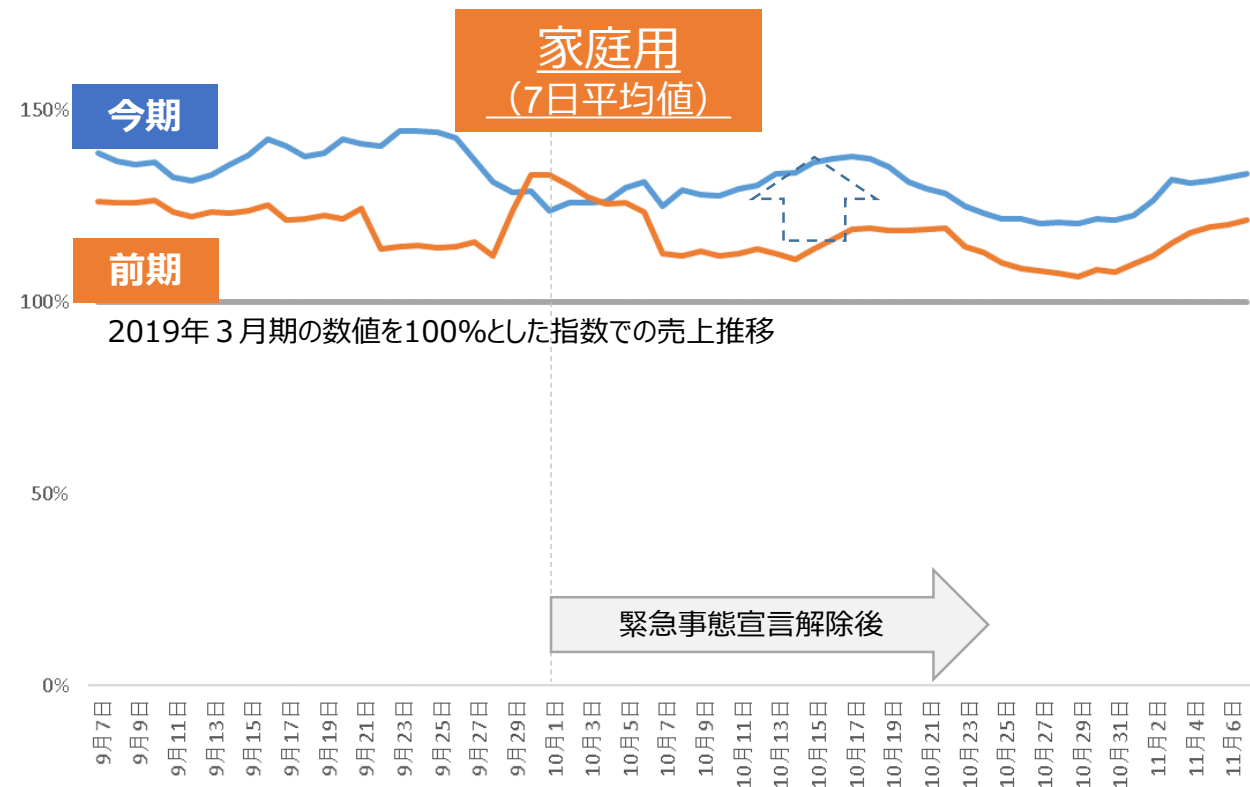
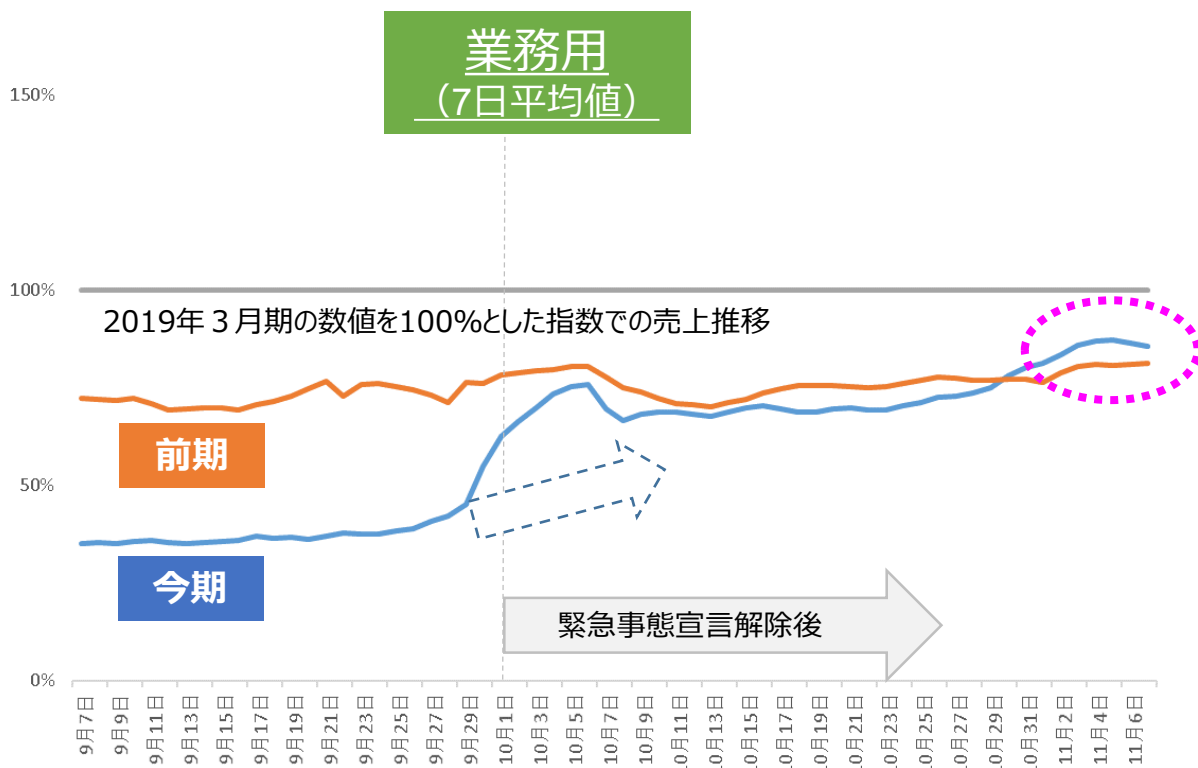
2022年3月期連結予想について

4. 配当方針について

3. 今後について

▶ 10～11月の状況（緊急事態宣言前後の売上推移）

- 業務用は、緊急事態宣言解除を機に、前年を超える勢いで回復。
- 家庭用は、緊急事態宣言解除後もコロナ前の水準を大きく上回ったまま推移。



カクヤス社単体の売上を7日間平均にて算出（速報値であり、正式な財務データではありません）

3. 今後について | 業務用

業務用市場はコロナ前には届かず。(足元は80%程度)

- 飲食店の人手が足りない（店を開けられない）
- 深夜帯の需要が取れない
- 企業からの後押しがない（忘年会等）
- 業態転換した飲食店も多い

**当社としては、新規を獲得してシェアを伸ばし、
売上を100%（コロナ前）に戻す。**

3. 今後について | 業務用

▶ 業務用市場で365日のサービス維持は、シェア拡大のチャンス。

(コロナ禍でも顧客サービスは崩さない)

■ コロナ禍での他の業務用酒販店の状況

- ✓ 業務用（飲食店向け販売）を専業としており、家庭用向けの販路がない。
- ✓ サービスを縮小し（車両を減らし・人員を減らし）つつ、支援金でしのいできた。
- ✓ 資金調達難（コロナ禍で行った金融支援、劣後債などの返済義務はこれから起こる）

外食市場のコロナ前までの回復が見通せない中、他の業務用酒販店が従前のサービスに戻すのは困難

当社グループは飲食店様の要望にお応えできる体制をコロナ禍でも確保してきた。

シェア拡大のチャンス

3. 今後について | 家庭用

▶ 家庭用市場では、手を緩めず追加施策。

- ① 家庭用拠点の新規出店
 - ② CM等の追加投入
 - ③ 更なる商品ラインナップの強化
 - ④ 年末に向けた家庭向けパーティー需要の囲い込み
- ▶ 家庭用の伸びが高いエリアへ
 - ▶ 交通広告の実施／動画マーケティング（カクベツ）
（首都圏JR 主要駅にて）
 - ▶ 介護用品・生活用品の品ぞろえ・配達開始
 - ▶ 「家飲み」「ご馳走」「少人数」商材の強化

今期出店した家庭用拠点

エリア	名称	開店日(予定)	
世田谷区	千歳台DS	4月OPEN	1Q
大田区	東雪谷DS	4月OPEN	
世田谷区	三軒茶屋栄通り店	5月OPEN	
横浜市鶴見区	生麦DS	7月OPEN	2Q
八王子市	八王子八日町店	7月OPEN	
八王子市	八王子北野DS	7月OPEN	
世田谷区	桜丘DS	7月OPEN	
調布市	調布菊野台DS	8月OPEN	
東村山市	KY久米川店	9月OPEN	

交通広告での販促（CM・ポスター）

J R 東日本 / トレインチャンネル・駅構内ビジョン



新規商品導入（生活・介護品）

10月より開始 約200SKU~



「ご馳走」お取り寄せ商品導入

（他、焼肉、ふぐ等、拡大中）

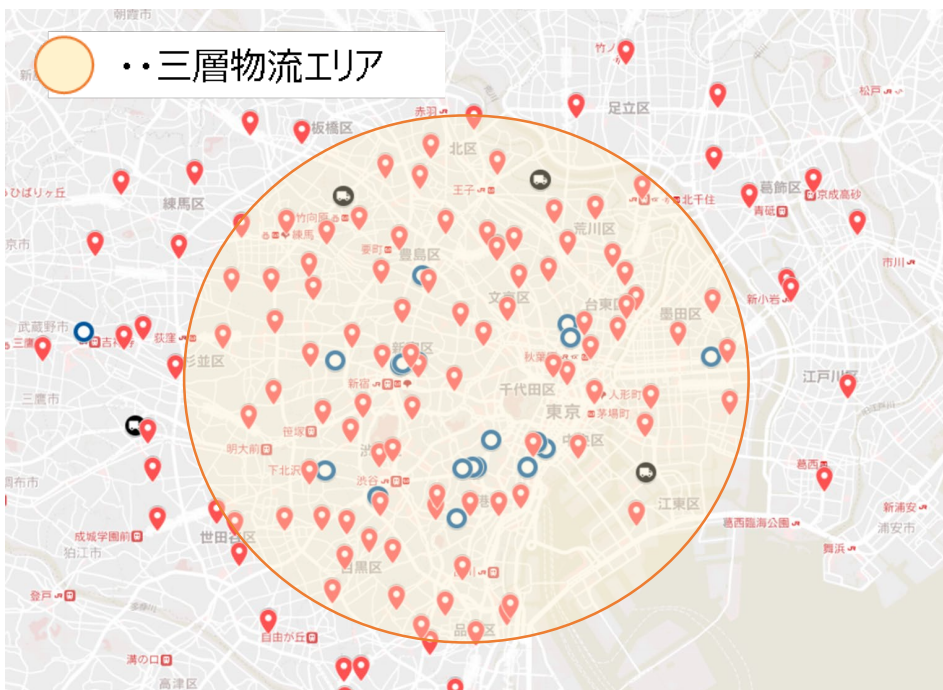


3. 今後について

▶ 新たな宅配ビジネスモデル（三層物流）の完成に向けて

- 環状8号線を境に内側を三層物流エリアとし、店舗から飲食店配送の移管はおよそ半分が完了。
- 家庭用の伸びが大きいエリアへの小型倉庫（DS）の出店と、構築に向けての業務用の小型倉庫（SS）の出店を加速。
- 家庭向け宅配枠の最大化と業務用復調時の配達網整備のため、よりフレキシブルな物流体制へ。

（カクヤス社 出荷倉庫拠点図）



（三層物流のイメージ図）



- DS 新規出店予定
（家庭用の伸びが大きいエリアへ）

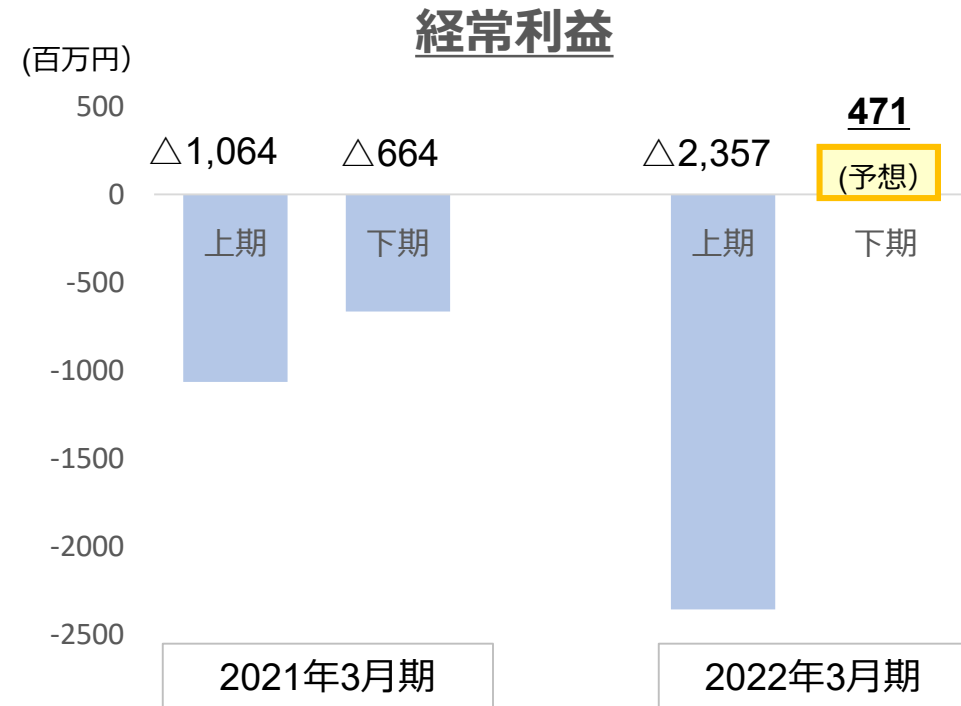
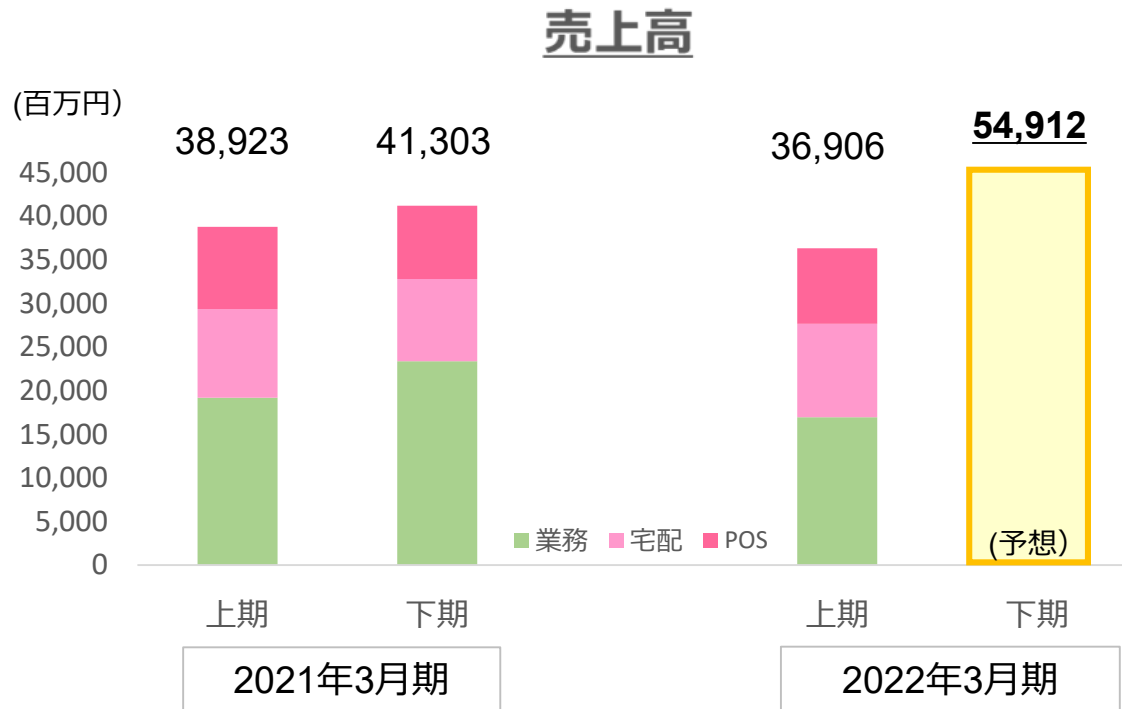
エリア	名称	開店日（予定）
中野区	中野DS	11月予定
大田区	糎谷DS	12月予定
大田区	馬込DS	12月予定

- SS 新規出店予定
（三層物流構築に向けて）

エリア	名称	開店日（予定）
板橋区	池袋SS	12月予定
渋谷区	渋谷SS	12月予定

2022年3月期連結予想について

- 緊急事態宣言の解除により経済活動が再開され、段階的に日常生活が平時の状況に戻りつつあるが、飲食店への客足の回復は鈍く、**業務用売上高は緩やかな回復となる見込み**。
- 上期は新型コロナウイルス感染症の影響で減収・減益ながら、今後、業務用が段階的に立ち直り、家庭用向け販売が好調な事で、下期での黒字化を達成の見込み。



※当該連結業績予想は、再度緊急事態宣言や外出自粛要請、休業要請、飲食店への営業時間の短縮要請などは発生しないことを前提としています。

2022年3月期連結予想について

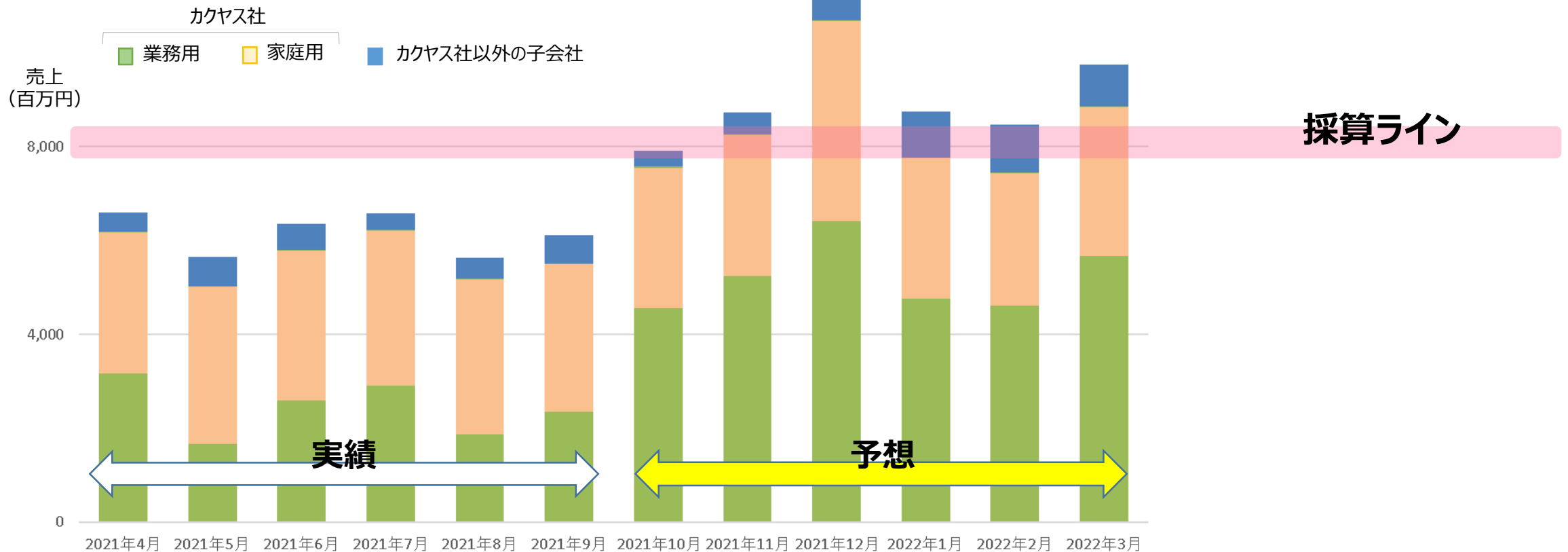
(百万円)

科目名	2021年3月期	2022年3月期 予想	増減率
売上高	80,226	91,819	14.4%
売上総利益	16,850	19,311	14.6%
	21.0%	21.0%	-
販売費および 一般管理費	19,452	21,605	11.1%
	24.2%	23.5%	△0.7pt
営業利益（損失）	△2,602	△2,294	-
	-	-	
経常利益（損失）	△1,728	△1,886	-
	-	-	
親会社株主に帰属する 当期純利益（損失）	△1,601	△1,566	-
	-	-	

2022年3月期	
上期（実績）	下期予想
36,906	54,912
7,906	11,404
21.4%	20.8%
10,675	10,929
28.9%	19.9%
△2,768	474
-	0.9%
△2,357	471
-	0.9%
△1,898	332
-	0.6%

2022年3月期連結予想について

- 下半期、業務用はコロナ前の80%程度で推移をし、家庭用はコロナ前の130%程度の伸長を維持することを想定。
- **業務用の戻りが全体を押し上げ、下期での黒字化は十分達成可能であると考えております。**



1. 第2四半期 決算概要

2. 第2四半期 事業報告

3. 今後について
2022年3月期連結予想について

4. 配当方針について

4. 配当方針について

【2022年3月期配当】

中間配当金 : 1株当たり10円00銭

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う飲食店の営業自粛による影響を受け、当社は第2四半期連結累計期間では四半期純損失を計上しましたが、10月からの緊急事態宣言解除により飲食店も営業を再開し、第3四半期以降は売上改善に伴い経営成績が好転すると見込んでおります。

これにより当社の配当方針を踏まえ、2022年3月期の中間配当については、1株当たり10円00銭と致します。今後も、継続的かつ安定的な配当につとめてまいります。

注意事項

本資料は当社についての情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却等の勧誘を目的としたものではありません。

投資に関する決定はご自身の判断において行っていただくようお願いいたします。

資料の内容については、現在入手可能な情報から説明しておりますが、事業環境が大きく変化することも考えられます。

従いまして、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって大きく異なる結果となりうることを、あらかじめご承知おきください。

お問い合わせ先
株式会社 カクヤスグループ I R室
ir@kakuyasu-group.co.jp

<https://www.kakuyasu-group.co.jp/>

APPENDIX

(九州福岡市における2社の合併)

■ 連結子会社間の吸収合併ならびに存続会社の商号変更に関するお知らせ

2022年3月1日を効力発生日として、当社の完全子会社である株式会社ダンガミとサンノー株式会社を合併し、存続会社であるダンガミ社の商号を**ダンガミ・サンノー株式会社に変更**することを決議しました

(2021年10月15日適時開示)



繁華街型業務用酒類小売の「リカーズABC」を運営

サンノー
株式会社

+

株式会社
ダンガミ

ナイトマーケットに強い

食系のお客様に強い

※食系 = 居酒屋、レストラン等



福岡県・長崎県を中心とした業務用酒販店「酒のガリバー」等を10店舗展開

【合併の目的】

【体制強化】 × 【経営効率化】

拠点数

(カクヤスグループ 拠点一覧)



	2021.03期	2022.03期			
	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
(1) 業務用拠点					
(株) カクヤス					
業務用センター	10	9	9		
業務用店舗 (kakuyasu class)	6	6	6		
業務用小型倉庫	14	15	17		
合計	30	30	32	0	0
(株) ダンガミ					
業務用センター	2	2	2		
業務用店舗 (酒のガリバー 等)	10	9	9		
業務用小型倉庫	-	1	1		
合計	12	12	12	0	0
サンノー (株)					
業務用店舗 (リカーズABC)	1	1	1		
(2) 家庭用拠点					
(株) カクヤス					
WEBセンター・社内物流センター (平和島)	2	2	2		
店舗1. (なんでも酒やカクヤス)	138	138	138		
店舗2. (KYRICA)	27	27	28		
店舗3. (CORK)	1	1	1		
小型倉庫	10	12	16		
合計	178	180	185	0	0
(3) その他の拠点					
明和物産 (株)					
小型倉庫	8	8	8		